

中日新聞(三河版) 2016年7月13日(水)



絵画展を開く山口恵里子さん(左)と講演会を開催する藤田佳久さん(東海日日新聞社)

愛大公館にちなみ12日から絵画展

藤田名教授講演は16日

豊橋市美術博

「水会友の山口恵里子さんの絵画展」愛知大学公館を描くこと、同大公館にまつわる講演会は、豊橋市今橋町の市美術博物館第1展示室で今月中旬に開催される。愛知大学同窓会など後援。絵画展は12日、17日まで。市有形文化財指定の同大公館を描き続けてきた山口さんが、油彩やパステル画など24点を披露。山口さんは「100号の大作も、ぜひ足を運んでほしい」と話す。講演会は、16日午後1時から。愛知名譽教授で同大東亜同文書院大学記念センターフエローの藤田佳久氏が「描かれた公館が語る豊橋物語」をテーマに講演する。絵画展、講演会ともに入場無料。(三浦ゆかり)



愛知大学公館を描いた絵画展を開いた山口恵里子さん。豊橋市美術博物館

描き続けた愛知大学公館

3月まで大学職員の山口恵里子さん

明治末期に陸軍第15師団長官舎として建設され、100年以上たった今も当時の姿が残る「愛知大学公館」は豊橋市高師石塚町に描いた絵画展が12日、同市美術博物館で始まった。手がけたのは、今年3月で同大学を退職した山口恵里子さん(66)。建物の外観のほか、室内から窓の外を見た景色など職員ならではの作品も並ぶ。

豊橋市美術博物館で個展

官舎が造られたのは1912年。木造平屋建てで洋館に和風の建物を併設している。空襲なども免れ、師団長官舎としては全国で唯一、創建当時の姿を残す。戦後、愛知大学が開学すると、大学公館となり、

学長の住宅や教員と学生の交流の場として、80年代後半まで使われていたという。2002年9月、市の有形文化財に指定された。山口さんは、同大学短期大学部を卒業後、事務職員

に。初任給で絵の具を購入して以来、趣味で絵を描いてきた。06年から大学展示室の改修などの仕事に就いたのが縁で、公館を訪れる機会が増えた。ある日、赤れんがの門から建物を振り返ると、窓に秋の夕日が差し込んでいた。「モチーフとして描きたい」という衝動に駆られた。

仕事の合間に、スケッチを始めた。正面にある古井戸や車寄せ、タイル張りの流し台、勝手口、窓から見える景色などを描くうちに、「公館の歴史的価値を広く知ってもらい、保存するだけじゃなく再び活用し

てほしい」と考えるようになった。08年から中部一水会に出品したり、大学内に作品を展示したりしてきた。今回は、退職の記念として絵画歴46年目で初の本格的な個展。20、100号の油絵10点のほか、デッサンとして描いたパステル画13点が展示されている。山口さんは「第二の人生は、公館をはじめ、明治時代に建てられた大学の施設を描き続け、全国に発信していきたい」と話す。16日午後1時から、同大名譽教授の藤田佳久さんが「描かれた公館が語る豊橋物語」と題して講演をする。入場無料。17日まで。(松永佳伸)

中日新聞（東三河版） 2016年5月19日（木）

各国の歴史的な 出来事など紹介

「小崎外交官、
世界を巡る」

著者の小崎昌業（おさき 昌業）さんは戦前に中国で生まれ、上海にあった東亜同文書院大に入学。戦後、同大の受け皿として創設された愛知大で学び、卒業後は外交官として世界を巡った。両大の設立と実態をつづった貴重な証言記録だ。著者の軌跡は、

激動の昭和と、びつたり重なる。戦火が迫る中での学生生活、外交官として中華民国（現台湾）、インド、モンゴル、ルーマニアなどで直面した歴史的出来事の数々。淡々とした筆致だが、冒険小説のように波乱に富む。

A5判、122頁。

926円（税別）。名古屋市中区千代田3の1の12、第二記念橋ビル、あるむ052（332）0861発行。

山形新聞 2016年7月26日（火）

川西出身・本間さん顕彰

愛知大創設
法律学者 功績振り返る講演会

（川西）

川西町出身で、愛知大（愛知県豊橋市）創設者の法律学者・本間喜一さん（1891～1987年）を顕彰する講演会が18日、川西町交流館「あいばる」で開かれ、

戦後、迅速に同大を創設した本間さんの功績を振り返った。同大の藤田佳久名誉教授が「本間先生による愛知大学誕生の奇跡」と題して講演。本間さんは同大の前身



本間喜一さんの功績などについて語る藤田佳久愛知大名譽教授
川西町交流館

で戦前、中国・上海にあった日本の高等教育機関・東亜同文書院大で最後の学長を務め、敗戦後、日本に引き揚げてからわずか3カ月で愛知大を創設した。敗戦の予感から、学生の受け入れと引き揚げ後の大学設立への先手として富山県に呉羽分校を設置。上海から同校にスタッフを送り、新校候補地の調査や大学再編に向けた議論を重ねたことが短期間で創設に結び付いたとした。

こうした本間さんの先見が聴講した。

東亜同文書院大42期生で愛知大の1期生でもある元モンゴル、ルーマニア大使小崎昌業さんの講演もあった。講演会は、本間さんと縁で町と同大が2014年に連携・協力協定を締結したことを記念して開催し、3回目。町民ら約80人が聴講した。

愛知大学創立70周年記念事業

東亜同文書院の45年 愛知大学の70年



入場無料・予約不要

**愛知大学記念館
所蔵コレクション展** **8/24(水)～28(日)**
会場／名古屋市博物館 3階

講演・上映会 8/27(土) 13:30～16:15
会場／名古屋市博物館 講堂

DVD上映1 東亜同文書院から愛知大学の歩み「21世紀にはばたく真の国際人の育成」
講演1 東亜同文書院大学から愛知大学へ 藤田佳久 [愛知大学名誉教授]
講演2 「日中に懸ける」を超えて—東亜同文書院、愛大が輩出したグローバル人材に学ぶ—
佐藤元彦 [愛知大学経済学部教授、愛知大学前学長]


DVD上映2 映像アーカイヴズ「愛知大学記念館・愛知大学公館」
講演3 「東亜同文書院大学から愛知大学へ」展示会・講演会」の全国展開をプロデュースして
田辺勝巳 [愛知大学豊橋研究支援課長]

名古屋市博物館では、「世界遺産ポンペイの壁画展」を開催中。

 **愛知大学** AICHI UNIVERSITY  2016年
創立70周年

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
豊橋市町畑町1-1 TEL.0532-47-4139

Q 愛知大学東亜 検索

 ◆東亜同文書院の45年、愛知大学の70年 24～28日、名古屋市博物館で愛大記念館コレクション展。東亜同文書院は中国・上海にあった愛知大の前身校。27日午後1時半から講演や上映会。入場無料。予約不要。☎愛大記念センター＝電0532(47)4139



愛知大にゆかりの深い人物の書が展示されている。名古屋市瑞穂区の市博物館で

愛知大70周年で所蔵資料を展示
名古屋市博物館
愛知大の創立70周年記念事業「愛知大記念館 所蔵コレクション展」が24日、名古屋市瑞穂区の名古屋市博物館3階ギャラリーで始まった。
同大の前身ともいえる東亜同文書院の45年間と愛知大の誕生(1946年)から現在までの70年間の史資料を展示している。28日まで。入場無料。
東亜同文書院を1901(明治34)年、上



音声ガイドを聞きながら展示物を眺める来場者。名古屋市博物館で

海に設置した東亜同文書の初代会長・近衛篤磨を含む近衛家4代の書や、中国の政治家・孫文に関する資料なども展示されている。また、27日午後1時半から、同博物館地下1階で藤田佳久名誉教授らの講演・上映会を予定している(入場無料、予約不要)。問い合わせは同大東亜同文書院大学記念センター(0532・4741009)。(多和田奈々)

東亜同文書院の伝統

名古屋 愛大創立70周年記念展

愛知大創立七十周年を記念した「愛知大記念館 所蔵コレクション展」が二十四日、名古屋市瑞穂区の市博物館で始まった。愛知大東亜同文書院大学記念センター(豊橋市)の主催。二十八日まで。

貴重な掛け軸や写真のコレクション四十四点が並ぶ。愛知大の前身、東亜同文書院(後に大東亜同文書院)は一九〇一年、中国との貿易を目的にビジネススクールとして中国・上海に設立された。終戦で中国に接取されたが、最後の学長だった本間氏らの呼び掛けにより、豊橋市の陸軍予備士官学校跡地で「愛知大学」と名称を変えて開校した。愛知大の藤田佳久名誉教授は「当時としては進んだ国際感覚を持った東亜同文書院の存在を知ってもらえば」と話した。二十七日午後一時半からは、これまでの歩みを紹介した映像上映と講演がある。入場無料。(相沢紀衣)

和室は初、全館公開 あすから

建築1世紀 愛知大公館

陸軍第15師団長官舎として1912(明治45)年に建設され、100年以上の歴史を持つ豊橋市高師石塚町の「愛知大公館」が8~10日、全館を一般に無料公開する。和室部分の公開は初めて。(相沢紀衣)



期間限定で公開される愛知大公館。手前に洋館、奥に和室が並ぶ。豊橋市高師石塚町で

洋館に和室を併設し、二年以上は使わなかった木造平屋の四百八十平方メートル。洋風の玄関内に入ることができなから入ると、左手の部屋は天井が高く、暖炉や椅子、テーブルが並び、右手に進むと、急な天井の低い和室がある。愛知大の藤田佳久名誉教授は「生活空間として後に増築され、和洋折衷は珍しい」と話す。師団長官舎として全国で唯一、当時の姿を残している。戦後は大学の学長や教員の宿舎となったが、二十年以上は使われていない。普段は館内に入ることができなから入ると、二〇一二年に洋館部分のみ公開した。見学は午後一時半、四時半。初日は愛知大豊橋キャンパス(豊橋市町畑町)で、藤田名誉教授らの講演会もある。公館を描いた絵画展や「豊橋の偉人パネール展」も同時開催する。愛知大東亜同文書院大学記念センターが主催し、市が共催。岡田大豊橋総務課 053-2(47)4111

東愛知新聞 2016年10月9日(日)

愛知大学公館を一般公開

旧陸軍の第15師団長官舎

豊橋市制110周年記念
市民提案イベント

旧陸軍第15師団長官舎が公開された。として1912(明治45)年に建設され、豊橋市指定文化財となっている愛知大学公館(高師石塚町の一般公開が8日、始まった。初日は約250人が訪れ、100年以上前には造られたレトロな館内を見学した。10日まで開催される。豊橋市制110周年記念事業の市民提案イベントとして、普段は非公開となっている公館内部が公開された。洋館と和館を折衷した建物で、木造平屋の約482平方メートル、白大理石の美しい暖炉や高い天井が目を引き、洋室、寢室として使用していた和室などからなる。この日、館内では、戦後、米軍の接収を乗り越えてきた激動の100年を教授らが解説。国内に現存する旧師団長官舎7カ所のうち最古の部類に入り、移築転載されている。公開時間は午後1時半~同4時半で、入館無料。事前予約不要。(飯塚雪)



一般公開された館内。豊橋市高師石塚町で

中日新聞（東三河版） 2016年10月9日（日）

愛大公館 重文へ期待

豊橋で歴史たどる講演会 一般公開も

一九二二（明治四十）が八日、豊橋市町畑町の
五）年に陸軍第一五師団 愛知大豊橋キャンパスと
長官舎として建築された 近くの公館であった。
愛知大公館の歴史を振り 講演会には百十人が参
返る講演会と、一般公開 加。愛知大の藤田佳久名
た。



部屋を見回して説明を聞く参加者
豊橋市高師石塚町の愛知大公館で

豊橋技術科学大に勤め
ていた二〇一四年に建物
を調査した泉田英雄さん
（建築史）は「洋館と和
館が併設した陸軍師団長
官舎は豊橋しか残ってい
ない。耐震工事をすれば
国の重要文化財にもなり
うる」と期待を込めた。
公館では見学者がカメ
ラで部屋の様子を撮影
し、大学職員らの説明に
聞き入っていた。豊橋市
一色町の望月武敏さん
（六）は「洋と和が一緒
にあることに驚いた。ぜひ
残してほしい」と話し
た。

一般公開は十日まで。
午後一時半～四時半。
（相沢紀衣）

中日新聞（東三河版） 2016年10月27日（木）

俳画の講演と作品展示

愛大でルーマニアの准教授

愛知大が招聘したコ
ンスタンツァ・オウイ
ディウス大学（ルーマ
ニア）のイオン・コッ
ドレスク准教授（六）が
二十六日、豊橋市町畑
町の愛知大豊橋キャン
パスで、俳句を絵で表
現する「俳画」につい
て講演した。

日本の俳画を研究す
るコッドレスク准教授
は二〇一三年にドイツ
で、一四年にはフラン
スで作品展を開くなど
俳人、俳画家として国
際的に活躍する。

講演には大学関係者
ら十六人が参加。コッ
ドレスク准教授は「冬
を感じ」という趣旨
の句を表現する俳画
に、枝に残る枯れ葉が
描かれた例を紹介。句



作品を展示するイオン・コッドレスク准
教授＝豊橋市町畑町の愛知大学記念館で

の内容を直接表現する
だけでなく、句を解釈
して別物の絵で表現す
る俳画の技法を解説し
た。
愛知大大学院文学研
究科のルーマニア人留
学生、イフリム・アン
ドレーアさん（三）は
「日本で先生に会えて
の栄。日本語で俳句を
読めるようになりた
い」と話した。
招聘に合わせた作品
展「コッドレスク俳画
展」は十一月十日まで、
豊橋キャンパス内の大
学記念館で開かれてい
る。無料。日月曜と祝
日休み。（阿部竹虎）



第15師団に関する資料などを見学する参加者(愛知大学豊橋校舎で)

第15師団誘致から大学創設まで

愛大で講座 歴史解説

陸軍の第15師団の歴史などについて学ぶ講座「師団の誘致から大学創設まで」が1日、愛知大学豊橋校舎で開かれた。市民15人が、豊橋市に師団が誘致された経緯から、軍縮によって廃止に至る過程などについて学術的見識を深めた。

第15師団は、1907(明治40)年に豊橋への設置が決まった。翌年には約1万人の兵士が進駐。約50万坪の敷地に関係施設が建てられ、豊橋には多くの将兵が駐留して「軍都」と呼ばれるきっかけとなった。講座は、地域文化などの調査を行う山田正俊さん(72)が講師を務めた。山田さんは、軍が東海地方に新たな師団の設置を決めた後、各都市で誘致合戦となった事実などを紹介。「4都市の中で豊橋が選ばれた。演習地となる広大な敷地が

決め手になった。みられ、市に大きな経済効果をもたらした」と解説した。第15師団は、軍縮により1925(大正14)年に廃止となり、師団関連の敷地は遊休化。そのため、周辺地域の経済状況が深刻化した。師団長の官舎は、陸軍の「教導学校」(予備士官学校)と変遷していき、終戦により消滅。跡地には愛知大学が設立された。山田さんは大学の周辺地区が「軍施設」から、大学や小中学校が立ち並び、文教施設へと変遷していく歴史を紹介。現在の街並みに至る過程も説いた。

講座は、同市の100周年事業「知っトク!豊橋ゼミナール」の一環。南部地区市民館の主催で開催。10月に同市民館で、回講座を実施。1日には、愛知大学の記念館を見学した。山田さんは「豊橋の歴史を知ることで、あらためて魅力を感じ取ってほしい」と話す。(佐々木雄亮)

開学経緯などあゆみ解説

創立70周年で企画展

愛知大学豊橋校舎(豊橋市町畑町)は、敷地内の大学記念館で、創立70周年を記念した企画展を開催している。大学の前身となる「東亜同文書院大学」の取り組み



大学の歴史を紹介する企画展(愛知大学豊橋校舎で)

愛知大学豊橋校舎(豊橋市町畑町)は、敷地内の大学記念館で、創立70周年を記念した企画展を開催している。大学の前身となる「東亜同文書院大学」の取り組み

展示。大学の発展や理念などを伝えている。26日まで。1901(明治34)年、中国の上海で開校した「東亜同文書院」は、39(昭和14)年に大学へと昇格。愛知大学のルーツとなる「東亜同文書院大学」は、第二次世界大戦が終戦する45年に閉校した。日中友好を目的とした大学は、日本人を中心に約5000人の卒業生を輩出している。

企画展では、中国の大学が閉校後に、愛知大学が豊橋に開学する経緯などを紹介。中国での最終学長だった本間喜一氏が、(昭和21)年に創立させた過程などを年表で解説している。愛知大学は、陸軍の第15師団跡地に建設。現在の南栄近辺が、軍都から学校が立ち並び、文教地区へと姿容を遂げるきっかけとなった。会場には、東亜同文書院の開校から115年、愛大の創立から70年の歩みを写真やパネルを用いて振り返っている。同大豊橋研究支援課の田辺勝巳課長は「豊橋の地に創立して、地域と共に成長した大学の歴史を知ってほしい」と話す。記念館は、午前10時~午後4時まで。入館は無料。日祝日と月曜日休館。(佐々木雄亮)

東日新聞 2017年1月15日(日)

21日愛知大豊橋校舎で国際シンポ

東亜同文書院テーマに

国内外の研究者が最新の研究発表

戦前の中国に設立され、各界に有能な人材を輩出した東亜同文書院をテーマにした国際シンポジウムが21日午後1時から、豊橋市町畑町の愛知大豊橋校舎で開かれる。

愛知大東亜同文書院大学記念センターの主催。愛知大の前身に位置づけられる東亜同文書院について、卒業生のその後を中心に国内外の研

究者が最新の研究成果を発表する。参加無料、申し込み不要。問い合わせは愛知大東亜同文書院大学記念センター

電話0532(47)4139へ。講演者と演題は次の皆さん。ポールシンクレア(カナダ・レジーナ大学准教授)「東亜同文書院による世界初のビジネス言語教育と現代アメリカのビジ

ネス言語教育」▽石田卓生(愛知大東亜同文書院大学記念センター客員研究員)「日清貿易研究所・東亜同文書院の教育と卒業生の事例的研究」▽許雪姬(台湾・中央研究院台湾史研究所研究員)「台湾出身東亜同文書院卒業生の軌跡」▽藤田佳久(愛知大東亜同文書院大学記念センターフェロー)「東亜同文書院・同大学卒業生の軌跡と戦後日本の経



東亜同文書院の流れをくむ愛知大学の旧本館（現在は記念館）

済発展▽小川悟(表現技術研究所代表)「活躍する東亜同文書院の卒業生たち」

中日新聞(東三河版) 2017年1月18日(水)

愛大国際シンポ 豊橋で21日開催 国際シンポジウム 「東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う」が二十一日、豊橋市町畑町の愛知大豊橋校舎本館で開かれる。午後一時から。無料。東亜同文書院は愛知大の前身で、中国との貿易を目的にビジネススクールとして上海に設立された。シンポでは、カナダのレジーナ大のポール・シンクレア准教授が、商取引の場で用い

られるビジネス言語の教育を同書院が行ったのは「世界初」と紹介し、現代の米国でも参考にされていることを発表する。台湾出身の卒業生を追った中央研究院台湾史研究所の許雪姬研究員や、愛知大の藤田佳久名誉教授らも登壇する。

愛知大東亜同文書院大学記念センター 0532(47)4139



東亜同文書院の卒業生の軌跡紹介
豊橋・愛知大
国際シンポジウム「東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う」が

二十一日、豊橋市町畑町の愛知大豊橋校舎であった。
愛知大の前身で、中国との貿易を目的に、ビジネススクールとして上海に設立された同書院の卒業生について、国内外の研究者五人が発表した。
台湾の中央研究院台湾史研究所の許雪姬研究員は、同書院を卒業した三十人の台湾出身者の進路を追った。大半は台湾に戻り、金融関係や教師の仕事などに就いたが、中には日本の外務省に入った親日派や、第二次世界大戦中に中国国民党のスパイとなり日本軍に殺害された人もいた。
同書院で行われていたビジネスに特化した言語教育に注目した発表もあった。

近現代史における役割など考察

愛知大で東亜同文書院テーマに国際シンポ

愛知大の前身に位置づけられ、戦前の中国にあった東亜同文書院をテーマにした国際シンポジウム(愛知大東亜同文書院大学記念センター主催)は21日、同大豊橋校舎で開かれた。写真。国内外の研究者が、近現代史で同書院の果たした役割を論じた。
このうちカナダ・レジーナ大のポール・シンクレア准教授は、同書院で行われ



たビジネス言語教育と現代の北米のそれを比較検証。実際に使用された中国語教本「華語萃編」には、中国で重要視される

書類制度をはじめ作物の産地や市場、価格、産業機械などの具体的な記述があり「実際のビジネスの内容が言葉の練習に導入された」と述べた。
北米では、現在も言語系学部とビジネス系学部は学生集めで競い合うばかりで協力関係は望めないとして、学問領域を超えてより実用的な教育体制を確立した同書院の先駆性を指摘した。
(中嶋真吾)